

8 伝兵衛井筋 (鞠ヶ鼻井筋)

所在地:伊那市富県～東春近

築 造:天保4年(1833年)

管理者:伊那市春富土地改良区

三峰川から富県を経て東春近まで多くの水田を潤すかんがい用水路です。この歴史は明暦元年(1655)、水不足に悩む原新田村が三峰川から取水して開田しようとしたことが始まりでした。村では、佐久の五郎兵衛新田開発に携わった柳沢一族(柳沢弥左衛門)を招いて苦心の末に一旦は万治元年(1658)に完成させましたが、難所だった鞠ヶ鼻が崩壊、その後も失敗続き、村は多額の借金を背負ってしまいました。天保3年(1832)、杉島村(現在伊那市長谷杉島)の伊東伝兵衛は原新田村と協議し、高遠藩の許可を得て自費で改修、維持管理を行いました。その管理費として田一坪につき米を一合の十分の一、一村あたり百人以上の人足を出すことなどが反対を集め、未解決のまま伝兵衛は文久2年(1862)に死去しました。その後、高遠藩直営となりましたが、再び管理費問題が激化し、処罰者が出る事件にまで発展してしまいました。

昭和12年に春富井隧道が完成、また昭和33年には高遠ダムが完成したことで、難所であった鞠ヶ鼻を通ることなく水を確保できるようになり、伝兵衛のトンネルは、現在では地中に眠っています「まほらいな いいとこ 百選」に認定されています。



春富井隧道記念碑



頭首工記念碑